

事務連絡
令和2年11月9日

焼津市薬剤師会 会長 様

リクシアナ錠 15mg/日の疑義照会について

拝啓

先生におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

また日頃より、焼津市立総合病院の院外処方箋の応需につきまして、ご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、リクシアナ錠につきまして1日15mgの投与量につきましては以下の場合を除き保険適応外使用となります(60mg錠0.25Tとしても査定の対象となります)。処方せんを受け調剤された薬局様におかれましては査定の対象となりますのでご注意ください。

記

1日15mgを使用できるのは以下の場合のみです。

添付文書より抜粋(詳細は添付文書等を参照のこと)

①下肢整形外科手術施行患者における静脈血栓塞栓症の発症抑制

7.3 クレアチニンクリアランス 30mL/min 以上 50mL/min 未満の患者では、個々の患者の静脈血栓塞栓症発現リスク及び出血リスクを評価した上で、15mg1日1回に減量することを考慮すること。

7.4P 糖蛋白阻害作用を有する薬剤を併用する場合には、本剤15mg1日1回に減量することを考慮すること。

また、

8.7 原則として、術後の入院中に限って使用すること。

8.8 ……、下肢整形外科手術施行患者を対象として15日間以上投与した場合の有効性及び安全性は検討されていない

以上より整形外科では原則院外処方されることはありません。

②非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制、静脈血栓塞栓症(深部静脈血栓症及び肺血栓塞栓症)の治療及び再発抑制

8.5.4 本剤からワルファリンに切り替える場合は、抗凝固作用が維持されるよう注意し、PT-INRが治療域の下限を超えるまでは、本剤30mgを投与している患者では15mg1日1回とワルファリン、60mgを投与している患者では30mg1日1回とワルファリンを併用投与すること。

以上よりワルファリンへの切替期間中の投与のため処方期間は概ね14日分と考えられます。14日を超える処方については疑義照会の対象となると考えます。

製薬会社より塞栓症発症抑制のメリットと出血等のデメリットについて試験を行った結果、上記を除き15mg/日を投与する有用性は認められなかったとのことです。

以上

焼津市立総合病院
医薬品情報係長
金原 重良
054-623-3111